

においに着目したプログラム開発～くんくん Planet うん香道で旅する地球～

川口芳矢¹⁾、松山薫¹⁾ (¹⁾ (公財) 横浜市緑の協会 よこはま動物園、²⁾ WWF ジャパン、³⁾ 美術作家)

動物園は、子どもから年配者まで多様な人々が気軽に訪れる公共施設であると同時に、展示動物をとおして野生動物のおかれた状況や自然環境を学ぶことができる社会教育施設である。しかし、世間一般の動物園に対するイメージは、「レジャー」「娯楽施設」の域からなかなか出ないのが現状である。

動物園で学ぶことについてあまり意識をしていない人々に楽しみながら生物多様性について学ぶ機会として、においに着目したプログラムを実施した。嗅覚は、ヒトの五感の中で最も記憶に関連した感覚で、過去の経験により人それぞれ感じ方が異なる。そのにおいを言葉で表現することでより印象付け、身近なものと感じてもらえることができる。本プログラムは WWF ジャパンと美術作家との協同で企画し、2017年11月に実施した。告知はよこはま動物園や WWF ジャパンなど各団体のウェブサイトや SNS にて行い、小学生以上の親子を対象に定員は各回 50 名とした。また、中学生以上であれば一人での参加も可能とした。まず種名を伏せた動物の糞を嗅ぎ、においを言葉で表現する『うん香道』を行った。その後、園内で写真を撮りながらの動物観察や、餌のにおいを嗅ぐなどして先に嗅いだ糞が何の動物の糞かを推理した。実施後、参加者の感想からは、「うんちのにおいにはっきり違いがあるなんて!」「草食動物の中でもいろいろなにおいがあるのが興味深かった」「エサとうんちのにおいは一緒じゃない」など糞に対する既成概念を覆された驚きや、「ライオンよりチンパンジーの方がくさかった」「ペンギンのうんちは一番いいにおい」など実際の動物の糞のにおいに対する感想、「においで動物全体を知る面白い企画だった」「においから動物のことをじっくり考える良い時間だった」などの企画に対する評価など様々なものが得られた。一方、関わったスタッフからの感想では、「運営に手いっぱい参加者がどんな言葉で表現していたのかを記録できなかった」「もう少しゆっくり考える時間が作れば混乱が減るのでは」など改善の提案が挙がった。今後は、当初目的のにおいから生物多様性を喚起させられるようなプログラム構成とタイムスケジュールを再考し、よりよいプログラムにしていきたい。また、においに着目した新たな企画の立ち上げや検討もしていきたいと考えている。